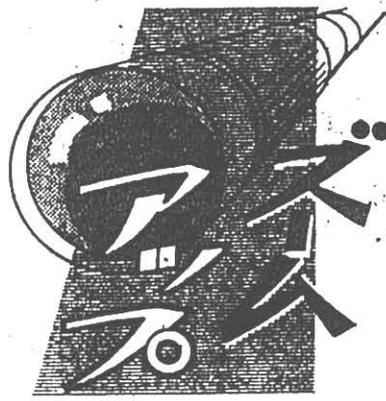


水俣病と同じ症状がありながら、患者として認定されな
い人たちの詳細調査が、十五日から三日間、厚生省の手で
行なわれた。この調査に同行して見たものは、かくれ
キリシタンにも似た、かくれ水俣病患者の存在であ
り、「認定患者は氷山の一角」という恐ろべき現状であっ
た。



〈植物人間〉

岩北郡岩北町女鹿のAさん(68)も、水俣病患者の一人だ。清澄な不知火海を見晴らす丘の上にあるAさんの家は、元イワシ漁の網元というだけに、古びているが、がっしりとした造りだ。その薄暗い茶の間、Aさんは首によたれかけのタオルを巻き、意味のない笑いを浮かべたまま、ぼんやりすわっていた。

Aさんの交際、まわりの人たちが気づいたのは、三十九年の夏ごろからだといふ。足がもつれ、船に乗り移るのに、ちまぐ飛べな

かたりした。四十年になって病状が悪化、イワシ漁は出来なくな

る。最初にかかった医師の診断は高

血圧、次の医者からは動脈硬化と

いわれ、それぞれ治療したがよくならない。四十四年になって、けいれん発作が起き、医者から「水俣病の診察をしてもらったら」とすすめられ、四十五年になって水俣病の認定申請を県に行なった。

「金に目くれてと人に言われはせんかと、すいぶんためらったけど、医者からもすすめられるし、部落の人たちも水俣病に間違いないかと言ってくれらしたし、申請した

とです」と妻は言っ

たが、調査の結果は、未認定だ

となどだった。

Aさんの家族はこれを不服とし、まげにやたれ、言質調査、聴聞をして、他の八人とともに、行政不服審査請求を厚生大臣に対して行ったが、水俣病研究会の原田正純(大塚節 精神科)は「動脈硬化があるとしても、それだけでは説明出来ない。水俣病の診断は、動脈硬化、運動失調、視野狭さ

水俣病未認定患者



患者宅を回って疫学調査をする厚生省事務官の一行

るが、Aさんにはそれがない。おのた。明らかに水俣病だ」と主張している。知覚が完全にマヒしているの

潜在かなり症者軽重

新潟にべ 厳しい県の審査基準

たAさんは、今までも承平坊にかえったようにすわっている。だが、植物人間化したAさ

んにも、悲しみの感情はまだ残っているのだらう。いこの場で、胎児性水俣病の少年(三)がたすねてきたのを見ると、よだれをたらした口をあけたまま、両方の目から涙をポロポロとこぼすのであった。

〈気兼ねや恥意識〉

臨床的にも、疫学的にも、水俣病的なAさんが、水俣病と認定されないのはなぜか。それは熊本県の公害基準がきびしすぎるからだ、とされている。

これまで認定された人の病状から「認定基準」を推測すると、別

〈認定患者の症状比較〉

	熊本	新潟
視野狭さく	一〇〇%	三七%
知覚障害	一〇〇%	九三%
運動失調	九三・五%	六五%
雷・語障害	八八・五%	三七%
聴力障害	八五・三%	六三%

表のようになり、新潟に比べていかにきびしいかがわかる。Aさんの場合は重症なので、知覚、運動失調、視野狭さくなどの検査が出来ず、このことが未認定の大きな理由となっている。

US基準がきびしい、重症者と軽症者は病の自かりごぼれ落ちてしまふ。これを裏付けるように、これまで認定された人は中程度の患者ばかり。それも四十四年六人、四十五年五人と小出しに認定されている。

なまじいことが起るの

か。水俣病研究会は「審査会自体に、水俣病の発生は昭和二十八年から三十五年という固定観念があるらう。認定さればすぐチツッが見舞い金を支払わねばならないための遺慮がある。しかも認定申請は本人がすることになっており、周囲への気兼ねや恥意識で、なかなか申請しつがらない」と主張している。

もちろん、県公害課は「純医学的な立場だ」と否定しているが、研究会の言い分をいくと、これまでの認定患者百二十一人は、ほんの氷山の一角ということになる。

〈一斉検診を〉

水俣病の発生はすでに終わった一という意見がある。確かに三十四、五年をピークに、その後は認定患者は出ていない。だが、Aさんのケースにみられるように、水俣病発生を二十八年・三十五年に固定して考えてよいのだろうか。あるいは、たとえ発生はなくても「発見」の仕事はまだ終わってわけではない。

水俣病発見の、一度も本格的な住民の「一斉検診」を行なおうとしない熊本県の行政姿勢は、「新潟水俣病」の新潟県に比べる、いくぶん立ち遅れていることは否めない。Aさんのように、認定を求めることの出来た人はむしろ、勇気ある少数派だといわれる。多くの物言わぬ潜在患者をばし出すのはやはり行政の責任だ。

なんと一斉検診の方法はないのか。チツソとの見舞い金契約が力べになるのなら、行政的に救済する方法はないのか。水俣病多発地帯を歩いてみて、そんな訴えをおちこちで聞いた。

公害の原水、水俣市でも、十五日から市議会が始まった。狭い市内を候補者の宣伝カーがめまぐるしく走り回る。だが、この候補も水俣病問題を真っ正面から訴えるものはいない。ここでは、いせん水俣病をタブー視する市民感情が根強いからだ。かくれ水俣病、と噂される水俣病・未認定患者の問題も、この風土から生まれたのではないか。

メチル水銀汚染が不知火海全域にひろがっていたことは、これまでの認定者が、北は田浦町から南は出水市まで及んでいること、県衛生研究所が三十五、六年に実施した「水俣病多発地区住民の毛髪中の水銀量調査」でも、汚染が対岸の天草にもひろがっていたことからもうなすける。

原田朝大講師は「推論だが、新潟の基準で言えば、水俣病患者は現在の認定者の三倍にはなるだろう」と言っている。水銀汚染者に至っては、数万人という数字になるはず